

国語科学習指導案

日時 10月20日(火) 5校時

授業者 石井 勇介

展開学級 2年4組

展開場所 被服室

1 単元名 みつわ台中学校の今後を述べる

2 単元の目標

(1) テーマに沿った意見文を作成しようとする。

[国語への関心・意欲・態度]

(2) 事実や事柄、意見が相手に効果的に伝わるように、説明や具体例を加えて意見文を書くことができる。

[書くこと(1)ウ]

(3) 相手や目的に応じて、使用する言葉を選び、わかりやすく表現することができる。

[伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ(オ)]

3 評価規準

国語への関心・意欲・態度	書くこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項
○テーマに沿った意見文を作成しようとしている。	○事実や事柄、意見が相手に効果的に伝わるように、説明や具体例を加えて意見文を書いている。(ウ)	○相手や目的に応じて、使用する言葉を選び、わかりやすく表現している。イ(オ)

4 単元について

(1) 本単元を貫く言語活動と扱う教材について

本単元では、来年度40周年を迎えるみつわ台中学校での活動をより良いものにしていくために、学校文集(学ぶ)から情報を収集し、今自分たちができることを級友に提案する意見文を書く言語活動を行う。これは、B「書くこと」の(2)言語活動例「イ多様な考えができる事柄について立場を決めて意見を述べる文章を書くこと。」にあたる。まず、テーマを設定し、意見とそれを支える事実を効果的に伝えるための情報を収集し、意見文を作成する。その後、級友に今後のみつわ台中学校での活動をよりよくしていくためにできることを提案するための交流会を開く。

今回はさまざまな表現ができる特殊な原稿用紙を使用する。通常原稿用紙とは異なり、生徒が手を伸ばしやすく、短時間で書くことができ、縦にも横にも使うことができる。視覚的で自由な構成が可能で絵や図も挿入することができ、生徒の書くことに対する抵抗感を和らげることができる。さまざまな表現の仕方ができるため、見出しと本文とカットで表現できる点、事実と意見を分けて書く点、大事なことを伝えたいことを短い文章で表現できる点などを活用できると考える。今回は、生徒が手を伸ばしやすい手段を用いて、今後は通常原稿用紙でも抵抗感なく、意見文を書くことができる生徒を育成したいと考える。

この原稿用紙を活用して国語科の取り組みとするために、事実と意見を書き分けることに重点を置きたい。短い文章の中でも、この二つを区別することによって意見文を書く力は向上していくと考えられる。

来年度 40 周年を迎えるみつわ台中学校での活動をより良くしていくために先人たちが残したものをから情報を集め、今後のみつわ台中学校のために今できること、していきたいことは何かを考えさせ、その意見を級友に向けて表出させたい。

(2) 本単元で身に付けさせたい力

ここで育成を図る能力は、B「書くこと」の(2)言語活動例「イ多様な考えができる事柄について立場を決めて意見を述べる文章を書くこと。」にあたる。具体的には、多様な情報を必要とするテーマに対して、自分の意見の根拠となる情報を選択して収集する力や、取り入れた情報から自分なりの考えを発信しようとする情報活用能力である。

本単元の第二時には学校文集(学ぶ)から情報を集める機会を設定した。その際、自分が伝えたい意見はどのようなことで、どのような情報が必要なのか。一方で、どのような事実から、このような意見を持つことになったのかが明確になるように情報を収集させたい。また、この原稿用紙は文字数に制限がある。そのため、一定の字数の中で、いかに内容の濃い情報を伝えるか、自分の伝えたいことを、言葉を選んで伝えられるかが鍵を握る。そのため一定の字数の中で意見とそれを支える事実を書くことによって意見文を書く力を養うことができると考える。この力を養うために課題の設定、意見とそれを支える事実を書き分けること、生徒が抵抗感無く使用できる原稿用紙によって書くことへ手を伸ばす一助になればと考える。単元では、情報を集める学習活動を通して、生徒が自分の意見を持ち、それを生活に活かしていくという姿を求めていく。その意見を支える根拠はどのようなもので、自分の意見を自分の言葉で説明できる生徒を育成したい。根拠を明確し、自分の言葉で自分の意見を書くことができれば、グループでの交流でも、自分の意見文に対する友人の意見に耳を傾けられ、さらに友人の発表にも自分の考えが述べることができ、交流学习が深めるのではないかと考える。

今回の意見文を書くという活動を通して、事実と意見を明確に分け、現実社会の問題についても意見を述べられる生徒が多くなればと考えている。

(3) (1)(2)の基盤となる言語環境や継続的な取組

本校 2 学年では、短学活で 1 日を振り返る日記を書くことになっている。その日にあったことを自分の言葉で振り返らせ、担任がそれに応える形式で、文章を書かせている。生徒は日に日に内容に深みのある日記が書けるようになってきている。担任も内容や文字数を指定して、様々な種類の文章を書けるように工夫している。

また、帯学習として「ミニ作文」を取り入れている。授業の始め 5 分を使い、自由なテーマを設定し、作文を書かせている。テーマは生活に関することやデータの読み取り、それに対するミニ意見文を書かせている。当初は生徒の書くことへの抵抗感をなくすために始めた時間だったが、継続するうちに文章の構成を整えることや自分の考えを明確にして書くという力の育成にもつながってきていると実感している。

5 生徒の実態 (2 年 4 組 男子 21 名 女子 18 名 計 38 名)

本授業の生徒は、学習意欲に差があり、なかには板書をノートに書き写すことで精一杯という生徒もいる。しかし、1年次から帯学習で古典の暗唱や詩の朗読などを継続的に行っている。2年次からはミニ作文の時間を帯学習で取り組んでいるが、書くことへの抵抗感は今だに大きいと感じる。また、2学年では短学活の時間に日記を書いている。

アンケート結果によると、文章を書くことに対してテーマによって得手不得手があるということがわかる。説明的文章の学習から文章構成が明確な文章ほど、その内容が読み取れるということを実感しているようだ。自分の意見を伝えるためには文章構成を考え、自分の意見をはっきりと伝えられるように心がけていると答えた生徒が多い。ただ、課題の設定や書くことに対しての目的を持ってない生徒も多い。今回の学習を通して、課題を明確に設定すること、自分の意見を伝えるためには、明確な根拠を示すことが必要であるということを感じさせたい。そして、自分の意見を文章で伝えられる生徒の育成をしたい。

国語科アンケートの結果

(1)文章を書くことは好きですか。

ア はい (8人) イ いいえ (10人) ウ どちらともいえない (17人)

(2)ミニ作文の時間に意識していることはどのようなことですか。

ア 文章をとにかく長く書くことを意識している。(5人)

イ テーマに沿った作文を書くことを意識している。(28人)

ウ 相手を意識すること。(0人)

エ その他(3人)

(3)相手の考えが読み取れる文章とはどのようなものですか。

ア 文章の構成(序論、本論、結論)が明確な文章。(21人)

イ 内容に合う語句が適切に使われている文章。(4人)

ウ 明確な事実が意見を支えている文章。(11人) エ その他(0人)

(4)文章を書く時に意識していることはどのようなことですか。

ア 意見を明確に書くこと。(11人) イ 図や表(データ)や事実などを示して書くこと。(1人)

ウ 文章の構成(序論、本論、結論)を意識して書くこと。(7人) エ 相手を意識して書くこと。(6人)

オ 説明や具体例を適切に表現して書くこと。(6人) カ 何も意識していない。(3人)

キ その他(1人)

(5)みつわ台中学校と聞くとどのようなことをイメージしますか。

みつ中ソーラン(2・3年生を送る会・他の学校にある部活がない[陸上部・吹奏楽部])

部活動・体育祭・合唱コンクール・委員会活動・清掃活動

6 学習計画（6時間扱い）

時	学習内容と活動	指導や支援の手立て(◇は評価)
1	<ul style="list-style-type: none"> ○学習の見通しをもつ ○特殊原稿用紙の特徴を知る。 ○「みつわ台中学校とは」というテーマを設定し、マッピング法で思いつくことを全員で考える。 ○みつわ台中学校の活動をより良くするために自分達ができることは何かという観点で課題を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の目的を理解させる。 ・特殊原稿用紙のモデルを提示し、ゴールを示す。 ・課題例(専門委員会の活発化、40周年の体育祭、部活動の取り組み、挨拶の充実を図るためにはなど) ◇全員で考えた「みつわ台中学校とは」のマッピングから課題を設定できたか。(ワークシート)
2	<ul style="list-style-type: none"> ○学校文集(学ぶ)から、過去のみつわ台中学校の情報を集める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校文集から課題に対しての情報を集めさせる。
3 4	<ul style="list-style-type: none"> ○情報からみつわ台中学校の活動をよりよくしていくために自分たちに何ができるかを考える。 ○特殊原稿用紙の構成を考え、下書きを書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇ワークシートに、情報から自分の考え、意見をまとめているか。(ワークシート) ・構成の基本的なパターンを例示する。 ・下書き用紙にモデルを参考に下書きを書かせる。 ◇根拠となる事実を示しながら特殊原稿用紙の構成を工夫して書いているか。(特殊原稿用紙)
5 本 時	<ul style="list-style-type: none"> ○特殊原稿用紙で文章の構成や材料の活用の仕方などについて交流会行う。 ○6人(5人)一班でそれぞれのテーマの特殊原稿用紙を持ち寄り、読み合う。 ○原稿用紙を読む観点を決め、ふせんにコメントを書く。 ○級友の付箋を参考に、文章を読み返して、改めて自分の表現に役立てる。 ○自分の意見を相手に伝えるために大切だと思うことをワークシートに書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特殊原稿用紙を回し読みする時のルールを確認させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>観点 書き方についての評価。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①意見を伝えるために構成は適切か。 ②事実が意見を支えているか。 ③説明や具体例は適切か。 ④適切な語句や表現の使用は適切か。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ◇文章の構成や事実の活用の仕方について、意見を述べたり、助言をしたりして、自分の考えを広げているか。(交流)
6	<ul style="list-style-type: none"> ○前時の学習を活かし、特殊原稿用紙の清書を行う。 ○色鉛筆で美しく仕上げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・級友からの付箋を参考に、清書を書かせる。 ◇書いた文章を読み返し、根拠となる事実の引用や自分の意見を再考し、特殊原稿用紙を書いているか。(特殊原稿用紙)

7 本時の目標と展開

(1) 本時の目標

- ・自分とは違うテーマで書かれた意見文を意欲的に読もうとしている。(国語への関心・意欲・態度)
- ・意見文を互い読み合い、文章の構成や事実の活用の仕方について、意見を述べたり、助言をしたりして、自分の考えを広げている。(書くこと)

(2) 本時の展開

時配	主な学習活動と内容	指導や支援の手立て(◇は評価)
導入 (8分)	○本時の学習の目的と流れをつかむ。 文章を読み合い、伝わる文章の構成や事実の活用について考えを広げよう。	○本時の学習の流れを確認する。 ○読み合う観点の説明を行う。
展開 (35分)	○6人(5人)一班でそれぞれのテーマの原稿用紙を持ち寄り、読み合う。 ①他の生徒の原稿用紙のコピーを全て読む。 ②付箋に青と黄の観点を決め、比較と評価を行う。 青→相手の意見に対する考え 黄→書き方に対する評価 ③付箋に書いた評価を元原稿に貼る。 ○級友の付箋を参考に文章を読み返し、改めて自分の表現に役立てる。	読み合う観点 青→自分の立場との比較 黄→書き方についての評価 書き方についての評価。 ①意見を伝えるために構成は適切か。 ②事実が意見を支えているか。 ③説明や具体例は適切か。 ④適切な語句や表現の使用は適切か。 ◇文章の構成や事実の活用の仕方について、意見を述べたり、助言をしたりして、自分の考えを広げているか。 ・付箋を参考に、自分の表現に役立たせる。
まとめ (7分)	○自分の意見を相手に伝えるために大切にすることをノートにまとめる。	・本時の学習を振り返り、根拠となる事実意見は支えられていることに気付かせる。

(3) 参考資料・ワークシート等

- ・平成23年千葉市長期研修生研究報告 保田裕介先生 「書評」の見本